令和5年度　**学校の夢づくり支援事業**　実施報告

取 組 名	地域住民との関わりによる、本校生徒のコミュニケーション力向上を目指した取組【社会的環境からのアプローチ】

1　取組内容

本校は、知的障がいのある生徒を対象とした職業学科の特別支援学校で、将来の社会的・職業的自立に向けて主に作業学習に力を入れています。地域住民に向けて、本校独自の作業製品販売会を教育課程に組み込む予定となっていましたが、コロナ禍のため計画は中止となり、その代わりに工芸ものづくり科では、地域との関りを深めるきっかけとして篠路出張所の増築に伴う案内表示板づくりを行いました。

2　取組結果（実施効果、地域や保護者等との連携・周知など）

夢づくり支援事業により導入した FABOOL Laser CO2 は、ハイパワーの CO2 レーザーを採用することで厚いアクリルなど様々な素材を切断することができます。市立札幌豊明高等支援学校「工芸ものづくり科」（職業学科）では、主に木工製品づくりでの活用を考えました。レーザーカッターは、糸鋸などを使わずに曲線で木材を切断できること、同じものをたくさん加工するためには大変有効です。またパソコンで作成したデザインがレーザーで刻印できるので製品づくりのバリエーションが豊富になりました。

篠路出張所増築棟が「より親しみやすく、温かな雰囲気になるように」と、木製の名札・窓口案内板などを作成・寄贈しました。この地域貢献によって設置された、篠路出張所内の工芸ものづくり科製品展示コーナーは、隣接のコミュニティセンターに移設することになり、本校の地域とのかかわりを紹介する場として拡張されました。この中では、リサイクルサービス科や服飾ものづくり科の地域貢献の様子などがパネル展示され、市立札幌豊明高等支援学校の取組を地域の方々へよりアピールすることにつながりました。また、この活動は、北区 50 周年記念誌でも紹介されることになりました。

3　次年度以降の活用、展望

イラストレーターというソフトウェアを盛んに活用するようになり、レーザー刻印機で製作できる製品の種類が増えました。今後は、木材だけではなく、プラスチックなど色々な素材を扱った製品づくりが期待できます。

令和4年度　**学校の夢づくり支援事業**　実施報告

取 組 名	地域住民との関わりによる、本校生徒のコミュニケーション力向上を目指した取組【社会的環境からのアプローチ】

１　取組内容

本校は、知的障がいのある生徒を対象とした職業学科の特別支援学校で、将来の社会的・職業的自立に向けて主に作業学習に力を入れています。地域住民に向けて、本校独自の作業製品販売会を教育課程に組み込む予定となっていましたが、コロナ禍のため計画は中止となり、その代わりに工芸ものづくり科では、地域との関りを深めるきっかけとして篠路出張所の増築に伴う案内表示板づくりを行いました。

２　取組結果（実施効果、地域や保護者等との連携・周知など）

夢づくり支援事業により導入した FABOOL Laser CO2 は、ハイパワーの CO2 レーザーを採用することで厚いアクリルなど様々な素材を切断することができます。市立札幌豊明高等支援学校「工芸ものづくり科」（職業学科）では、主に木工製品づくりでの活用を考えました。レーザーカッターは、糸鋸などを使わずに曲線で木材を切断できること、同じものをたくさん加工するためには大変有効です。またパソコンで作成したデザインがレーザーで刻印できるので製品づくりのバリエーションが豊富になりました。

篠路出張所増築棟が「より親しみやすく、温かな雰囲気になるように」と、木製の名札・窓口案内板などを作成・寄贈しました。そして、この取組が高く評価され、北区長より感謝状をいただきました。また、今年度は、篠路出張所に本校の工芸ものづくり科が作成した製品を展示するコーナーが設けられ、地域との関りをより深めることができました。

感謝状授与の際に区長さんより「伐採した街路樹の活用」を御提案していただき、北区土木センターより２種類の木材を提供していただきました。こちらについては、まず、木球づくりで活用しています。

３　次年度以降の活用、展望

レーザー刻印機を１台増やすことでパソコンを使ってデザイン等を修正する機会が格段に増え、イラストレーターというソフトウェアを盛んに活用するようになりました。その結果、製品化に向けて様々なアイディアが生まれ、次年度以降は、このアイディアを活かした製品づくりを進めることになります。

令和3年度　**学校の夢づくり支援事業**　実施報告

取 組 名	地域住民との関わりによる、本校生徒のコミュニケーション力向上を目指した取組【社会的環境からのアプローチ】

１　取組内容

本校は、知的障がいのある生徒を対象とした職業学科の特別支援学校で、将来の社会的・職業的自立に向けて主に作業学習に力を入れています。地域住民に向けて、本校独自の作業製品販売会を教育課程に組み込む予定となっていましたが、コロナ禍のため計画は中止となり、その代わりに工芸ものづくり科では、地域との関りを深めるきっかけとして篠路出張所の増築に伴う案内表示板づくりを行いました。

２　取組結果（実施効果、地域や保護者等との連携・周知など）

夢づくり支援事業により導入した FABOOL Laser CO2 は、ハイパワーの CO2 レーザーを採用することで厚いアクリルなど様々な素材を切断することができます。市立札幌豊明高等支援学校「工芸ものづくり科」（職業学科）では、主に木工製品づくりでの活用を考えました。レーザーカッターは、糸鋸などを使わずに曲線で木材を切断できること、同じものをたくさん加工するためには大変有効です。またパソコンで作成したデザインがレーザーで刻印できるので製品づくりのバリエーションが豊富になりました。

～レーザー刻印による木材加工～

篠路出張所増築棟が「より親しみやすく、温かな雰囲気になるように」と、木製の名札・窓口案内板などを作成・寄贈しました。そして、この取組が高く評価され、北区長より感謝状をいただきました。また、篠路出張所より記念品も贈呈されました。

３　次年度以降の活用、展望

レーザー刻印機の活用が盛んになり、Ａ４マグネットバインダーを製品化することができました。次年度は、レーザー刻印機を１台増やして事業をより拡大していこうと考えています。

令和2年度　**学校の夢づくり支援事業**　実施報告

取 組 名	地域住民との関わりによる、本校生徒のコミュニケーション力向上を目指した取組【社会的環境からのアプローチ】

1　取組内容

本校は、知的障がいのある生徒を対象とした職業学科の特別支援学校で、将来の社会的・職業的自立に向けて主に作業学習に力を入れています。今年度は地域住民に向けて、本校独自の作業製品販売会を教育課程に組み込み実施する計画となっていましたが、コロナ禍で地域住民との関わりによる活動は行えませんでした。その代わりにコミュニケーション力向上を目指した取組として工芸ものづくり科では、主体的に接客や販売を行うような学習を取り入れました。

2　取組結果（実施効果、地域や保護者等との連携・周知など）

夢づくり支援事業により導入したFABOOL Laser CO2 は、ハイパワーの CO2 レーザーを採用することで厚いアクリルなど様々な素材を切断することができます。市立札幌豊明高等支援学校「工芸ものづくり科」（職業学科）では、主に木工製品づくりでの活用を考えました。レーザーカッターは、糸鋸などを使わずに曲線で木材を切断できること、同じものをたくさん加工するためには大変有効です。またパソコンで作成したデザインがレーザーで刻印できるので製品づくりのバリエーションが豊富になりました。

刻印による木材加工　『名刺入れづくり』

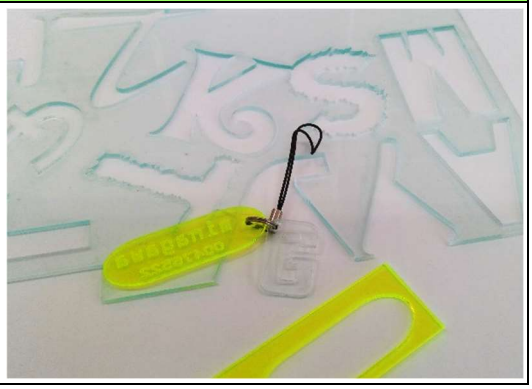
文字やイラストのレーザーによる刻印は、パソコン操作に慣れると数分で製作が可能です。地域へのアピールも兼ねて、本校教員の名刺入れを木材で製作して、レーザーを使用して模様や文字を入れるサービスを行いました。予想以上の受注があり、名刺入れを見た地域の方々からも良い評価をいただいております。

3　次年度以降の活用、展望

木材加工以外の利用方法として

◎プラスチック加工

レーザーカッターを利用してキーホルダーづくりに取り組みました。FABOOL Laser CO2 既存のソフトウェアを用いて、プラスチックを任意の形に切り抜き、併せて文字の刻印も行いました。プログラミングの要素もあるので情報科の授業としても大変有効でした。木材加工や工芸ものづくり科以外での活用も可能になりました。



平成 31 年度　**学校の夢づくり支援事業**　実施報告

取 組 名	地域住民との関わりによる、本校生徒のコミュニケーション力向上を目指した取組【社会的環境からのアプローチ】

1　取組内容

本校は、知的障がいのある生徒を対象とした職業学科の特別支援学校で、将来の社会的・職業的自立に向けて主に作業学習に力を入れています。令和元年度からは「豊明マルシェ」と銘打ち、地域住民に向け本校独自の販売会を教育課程に組み込み実施する計画となっています。全生徒が作業実習で制作した製品(窯業製品・服飾製品等)を、流通サービス科の生徒が検品・パッキングし、1 年生全員がコミュニケーション力の向上をめざし、主体的に販売や接客に従事することとなっています。

2　取組結果（実施効果、地域や保護者等との連携・周知など）

夢づくり支援事業により導入した FABOOL Laser CO2 は、ハイパワーの CO2 レーザーを採用することで厚いアクリルなど様々な素材を切断することができます。市立札幌豊明高等支援学校「工芸ものづくり科」(職業学科）では、主に木工製品づくりでの活用を考えました。レーザーカッターは、糸鋸などを使わずに曲線で木材を切断できること、同じものをたくさん加工するためには大変有効です。またパソコンで作成したデザインがレーザーで刻印できるので製品づくりのバリエーションが豊富になりました。

①刻印による木材加工　『学校祭での木札づくり』

4～6 文字のレーザーによる刻印は、パソコン操作に慣れると 3 分ほどで製作が可能です。地域へのアピールも兼ねて、学校祭の一般開放日の取り組みとして木札へのネーム入れサービスを行いました。大変好評で予想以上の受注がありました。接客から製作、製品受け渡しまで生徒が行いました。

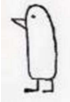
②切断による木材加工　『木球の台づくり』・『文字の切り抜き』

木球は、学校祭での販売活動でも人気の製品です。糸鋸を使って板を中抜きの円で切り抜く作業は時間がかかるので、これまでは台を作るという発想にはなりませんでした。レーザーカッターを使うと 1 つを 10 分程度で製作できます。また、同じものを複数製作することも容易でした。文字は糸鋸を使って製作していました。レーザーカッターとパソコンを使うと短時間で様々な文字の切り抜きが可能になりました。

3　次年度以降の活用、展望

木材加工以外の利用方法として

◎金属プレートに貼ったカッティングシートを任意の形(文字)に切り抜くことができました。「工芸ものづくり科」以外での活用も可能になりました。



◎素焼きの陶板に生徒が描いたイラストを刻印することができました。写真ではわかりにくいかもしれませんが、イラストを陶板に刻印して凹をつくりました。釉薬をつけて本焼きすると効果がよりはっきりと出現するはずです。次年度の豊明マルシェまでに製品化を目指しています。